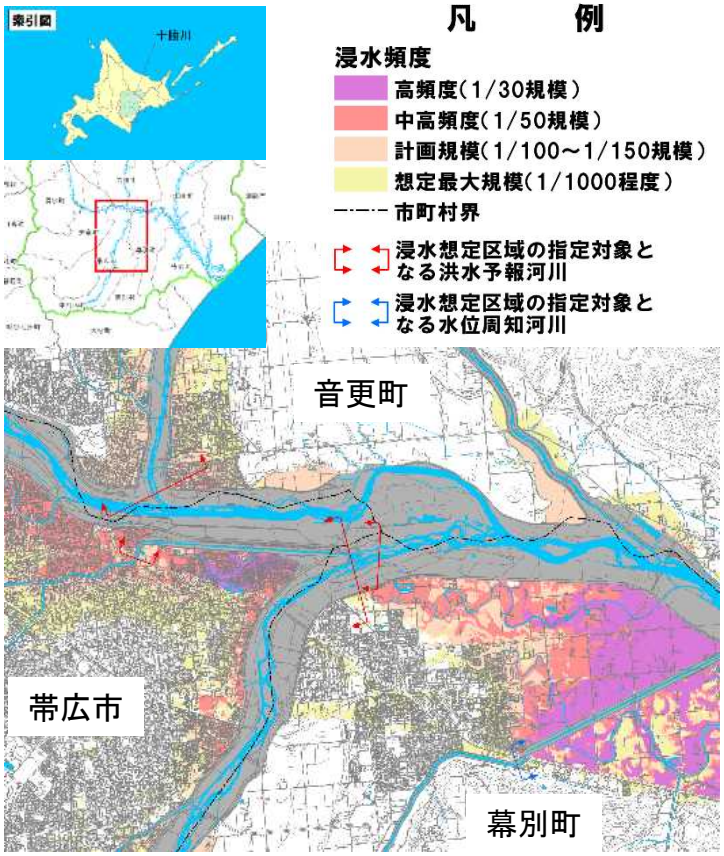
流域治水推進のための水災害リスク情報の充実について

資料－5

○水災害リスク情報の更なるデータの充実とその利活用（まちづくりや住まい方の工夫、将来の宅地開発や企業の立地選択等）の推進に向け、想定最大規模降雨のみならず中高頻度の降雨（例えば10年や30年に一度程度発生する降雨）を想定した場合の水害リスク情報を重ね合わせ、浸水の頻度を示した水害リスクマップ（仮称）の作成等を進める。
○まちづくりとの連携や流域対策も含めた事業効果の見える化等、様々な活用目的ごとに合わせたアウトプットも必要と考えられるため、今後各分野で検討。

【水害リスクマップ（仮称）イメージ図】



出典：北海道開発局帯広開発建設部浸水頻度マップ
（帯広市、音更町、幕別町）

【活用例（目的）】

＊まちづくり

・都市計画・立地適正化計画等（開発規制や居住誘導等）での活用、住まい方の工夫
→地域毎の水害リスク評価
→防災まちづくりの方向性の検討

＊治水対策

・流域対策も含めた事業効果の見える化
→より高頻度の浸水想定
→河川整備前後の浸水想定

＊避難行動

・タイムラインの作成
浸水頻度を踏まえた避難路等の設定
→新たなハザードマップの情報